ゴータマ・ブッダ国際平和賞授賞式長崎市長受賞講演

日時　平成 23 年 5 月 17 日

場所　ネパール　ルンビニー

ラム・バラン・ヤダブ　ネパール連邦民主共和国大統領閣下はじめ、御参列のネパール政府の皆様、初めてお目にかかります。長崎市長の田上富久でございます。

今から 2500 年ほど前、ゴーダマ・ブッダはこのルンビニーの地において誕生なさいました。ブッダの魂の平安を求める生き方や考え方は、宗教を越えて、世界の歴史や宗教、文化に大きな影響を与えてきました。私たちの国、日本でも、その教えは、今も多くの人々に影響を与え続けています。

今回、ネパールの皆様が平和への願いを世界に伝えるために創設なされた「ゴータマ・ブッダ国際平和賞」の栄えある第１回受賞者に選ばれましたことを、心から感謝を申し上げます。

今回の受賞にあたりましては、長崎と広島の被爆地の市民が、長年、協力して取り組んできた核兵器廃絶の努力に高い評価をいただいたとお伺いしました。

広島・長崎の被爆者たちは、自らが経験した体と心の痛みを、世界中の誰にも、二度と経験させたくないという思いで、自らの体験を語ってきました。核兵器のない世界の実現は、広島、長崎両市民の強い願いです。

その思いをご理解いただいた今回の受賞は、被爆地にとって大きな喜びであり、市民とともにこの喜びを広く分かち合いたいと考えています。

本年３月１１日、「東日本大震災」による地震と津波により、日本の東北地方の東側沿岸は壊滅的な破壊を被りました。世界各地から被災地に救援の手がさしのべられ、ネパールの皆様にも温かい御支援をいただきました。長崎は被災地から遠く離れており、特に被害はありませんでしたが、同じ日本人としてこの場をお借りいたしまして、ネパールの皆様に厚く御礼を申し上げます。

今回、震災では津波被害とともに福島原子力発電所の事故による放射線の不安がひろがりました。現在もなかなか収束に向かわない事故の行方に、国際社

会は深く憂慮しており、世界中の人々が放射線の恐怖に脅える事態が続いています。

私はこの機会に、放射線が人体に及ぼす影響について、正しく知ることの大切さを皆様にお伝えしたいと思います。そのことがパニックによる二次被害を防いでくれるでしょう。

と同時に、多量の放射線を放つ核兵器を、故意に人々の上に落とす行為が、いかに非人道的であるか、そして、私たちにはそのような兵器は必要ないということを、あらためて考えていただきたいと思います。

もしそれを落とすことでなく、持っていることで平和を維持する役目を果たすのだと主張するとしたら、それは信頼ではなく威嚇で世界をつくりあげようとする行為です。そして、それは「報復の連鎖」につながる愚かな行為であることにも、私たちは気づくべきでしょう。

１９４５年８月９日午前１１時２分、広島に続いて長崎に原子爆弾が投下されました。数千度の熱線、鉄筋の建物以外はすべてを破壊する爆風、そして、放射線の被害により、その年の暮れまでに、約７万４千人の方が亡くなり、約７万５千人の方々が負傷して、被災した家屋は１万８千戸以上に達して、長崎の街は壊滅しました。広島と長崎に投下された原子爆弾は、現在の核兵器から考えれば比較にならないほどの小規模の核兵器ですが、それでも凄まじい破壊力があったのです。

また、原子爆弾がさく裂した後、原子爆弾から放出された多量の放射線により、怪我もない人々や、復旧作業や肉親を探すために被爆地に踏みこんだ方々が、しばらくして髪が抜けて、嘔吐、発熱により亡くなっていきました。放射線による最初に被害を受けた市民は、広島と長崎の市民です。最近になって長崎大学の研究者は、被爆者は高齢になって、がんの発生率が急激に高くなるという研究成果を発表しました。

放射線は生涯にわたり、人間を脅かす破壊力があり、現在にいたるまで、その影響はまだ全容が判明していません。

被爆から６６年間、被爆者と長崎市民は、核兵器が人間に何をもたらすかを伝えるとともに、核兵器の廃絶を訴えてきましたが、現在でも２万発以上の核

兵器が地球上に存在しています。私たちは核兵器を全面的に禁止する「核兵器禁止条約」の締結を呼びかけており、国際社会の恒久平和の実現に向けて努力を重ねてきました。

そして今、あらためて世界の人々と連帯することの大切さを強く感じています。核兵器にどう対応するかは、広島・長崎の問題でもなければ、過去の出来事でもありません。それは今、まさに私たちが共有している人類全体の問題だからです。

インドと中国という大国のあいだに位置しながら、「非同盟中立」の外交方針にもとづいて、新しい国づくりを進めているネパールの国民の皆様にとっても、被爆地の私たちと同じく国際社会の平和と安定は切実な願いであろうかと思います。

どうか、大統領閣下はじめ、ご参列の皆様におかれましては、これを機会に被爆地との協力関係を深めて、恒久平和の実現と核兵器廃絶を世界に呼びかけていただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、今回、授賞式にお招きいただきました機会に合わせて、長崎市では国連アジア太平洋平和軍縮センターの御協力もいただき、カトマンズのトリブバン大学において原爆展を開催することにいたしました。

また、本日の授賞式には日本政府の非核特使として、長崎市議会議員の井原東洋一（いはらとよいち）様と同じく非核特使である井黒キヨミ（いぐろきよみ）様のふたりの被爆者、そして長崎の宗教者の皆様の参列をいただきました。

大統領閣下、また、御参列の皆様、ぜひ、ネパールの国民の皆様に広く呼びかけていただいて、原爆展において被爆の惨状を多くの方々に御覧いただきますよう御協力をお願い申し上げます。また、非核特使であるふたりの被爆者とも、機会がありましたら御懇談なされて、原子爆弾の恐ろしさについて御理解いただければと考えております。

「第１回ゴータマ・ブッダ国際平和賞」の受賞を機会に、私もネパールの皆様の平和を願う心を、世界に伝えていきたいと考えています。

御清聴、ありがとうございました。